

命依り通牒ニ及ビ候

閣下 四 號 起 昭和十八年一月六日 閣議決定 昭和十八年一月七日 施行 昭 和 年 月 日 裁可 昭 和 年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

外務大臣

由

海軍大臣

五

商工大臣

五

大東亞大臣

五

内務大臣

春

司法大臣

五

逓信大臣

五

大藏大臣

興

文部大臣

五

鐵道大臣

五

海

五

陸軍大臣

五

農林大臣

五

厚生大臣

五

別紙企畫院總裁上申

昭和十七年度第四四半期石炭配當
著減ニ伴フ措置ノ件
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和十八年一月七日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十八年一月六日上申(企畫院上申第一號)昭和
十七年度第四四半期石炭配當著減
ニ伴フ措置ノ件上申ノ通閣議決定
相成候

内閣

企畫院上申第一號

昭和十八年一月六日

企畫院總長 鈴木貞



内閣總理大臣 東條 英機 殿

昭和十七年度第四・四半期石炭配當著減ニ伴フ措置ノ件

首照ノ件ニ關シ別冊ノ通り閣議決定相成様致度此段及
上申候

昭和十七年度第四半期石炭配當等減ニ伴フ措置ノ件

(昭一八、一、四)
企 業 院

昭和十七年度第四半期ニ於ケル本州四國地方ノ石炭配當量ハ海上輸
送力ノ著減ニ伴ヒ陸運轉移其ノ他各般ノ手段ヲ講ジ極力其ノ確保ニ努
ムルモ約八五〇万噸トナルヘシ

右配當量ハ第三四半期ニ比シ約一〇〇万噸ノ減ニシテ且此ノ狀態ハ相
當長期ニ亘ル見込ナルニ依リ綜合戦力強化ノ觀點ニ立脚シテ差當リ左
ノ措置ヲ講ズ

直接軍需生産力維持増強ノ優先確保ニ努メ且ツ國民戦時生活ノ最低
限ヲ保持スル方針ノ下ニ別冊「昭和十七年度第四半期石炭配當給
ニ關スル件」及「昭和十七年度第四半期石炭配當標準」ニ據リ
重點的集中配當ヲ爲ス

右、結果企業、休止ヲ命スル必要ヲ生シタル場合（別途閣定ス）

ハ差當リ之ニ對シ國家ニ於テ其ノ金融、勞務等ニ關シ神速ナル救

濟措置等ヲ講ス、又休止ヲ命セサル場合ニ於テモ企業、事實上、

休止狀態ヲ生起スヘキヲ豫想セララルルヲ以テ該事態ニ關シ政府ハ

各般ノ措置ニ付豫算十キヲ期スル

尙ホ有餘經費ノ減少、其ノ他海上輸送力ノ著減ニ伴フ各種事態ヲ積

極的ニ解決整備シ速カニ綜合戰力ノ擴大ニ付テ是ノ為ニ産業再編成

計畫及方策ヲ確定ス

右計畫及方策ハ昭和十八年度物動計畫策案トモ關聯シ一月末日迄ニ策

定スルモノトス

備考

各般ノ措置ニ付豫算十キヲ期スル
尙ホ有餘經費ノ減少、其ノ他海上輸送力ノ著減ニ伴フ各種事態ヲ積
極的ニ解決整備シ速カニ綜合戰力ノ擴大ニ付テ是ノ為ニ産業再編成

本件ニ關聯スル事項ニ付キテハ特ニ各廳間及地方廳トノ連絡ヲ

密ニシ事態ニ伴フ動向ニ對シ行政廳、措置ニ遠算十キヲ期スル

コト

昭和十七年度第四半期
石炭需給ニ關スル件

企 畫 院	一連番號 11	昭和十八年一月四日	企計S物A〇九〇號
-------------	------------	-----------	-----------

目次

- 一、計畫要領
- 二、實施要領

一、計畫要領

- (一) 供給力ハ生産及輸送ノ兩面ニ亘リ之ガ可能ナル見込量ヲ計上スルノ方針ニ依リ特ニ需給逼迫ノ程度甚シキ本州四國地區ニ在リテハ生産ハ計畫量ノ全量ヲ揚上シ輸送ハ汽船輸送ヲ極力本州四國地區ニ集中スルノ方針ヲ採リ鐵道輸送、機帆船輸送ト共ニ計畫量ノ全部ヲ計上ス
- (二) 産業別配炭ニ付テハ北海道地區ハ供給過剩ノ狀況ニ照シ需要量ノ全額ヲ割當スルノ方針トシ九州地區ニ在リテハ現行配炭ニ對シ

増産ニ依ル配當増ヲ重點的ニ實施スルコトトシ本州四國地區ニ在
リテハ現行割當量約九百五十万瓩ヨリ約百万瓩、削減ヲ爲サザル
ヲ得ザル狀況ニ對シ戰爭遂行力、維持強化ヲ圖ル、根本方針ニ依
リ當面最少限度ニ必要ナル軍需ノ供給、輸送力、維持、國民戰時
生活、最低限維持ヲ優先確保スル、趣旨ヲ以テ概ネ左ニ依リ重點
配炭ヲ計畫ス

第一種 鐵鋼、鑛山精鍊、造船造機、金屬工業、輕金屬、電極、
硫安、硝酸メタノール、火藥、瓦斯、コークス、鐵道用、特殊
用（直接軍需）、船炭、電力

第二種 セメント、耐火煉瓦、有機合成カーバイド、過燐酸石灰
及化成肥料、醫藥品、ゴム、皮革、曹達工業、油脂及加工業、
食糧品（味噌醬油以外、釀造飲料ヲ除ク）ピツチ煉炭、液體燃
料、私鐵

第三種 石灰、硝子、製陶、纖維工業、釀造飲料（味噌醬油ヲ除
ク）、豆炭、孔明炭、煉瓦、其、他

三、實施要領

(一) 配給及消費關係

北海道ニ於テハ貯炭増大、傾向ニアルヲ以テ需要者ヲシテ本期中

ニ極力十八年度分繰上受入レニ協力セシムルコト

九州ハ増産及輸送減ヲ考慮シ下期規正ヲ緩和シ必要ニ應ジ隨時追

加配炭ヲ實施スルコト

本州、四國ハ左、要領ニ依リ規正ヲ斷行スルコト

(1) 直接軍需、貯炭ヲ一ヶ月以内ニ止ムルコトヲ原則トシ、民間

軍需工場、石炭不足ニ對シテハ直接軍需炭ノ融通ヲ爲サザルコ

ト

(2) 發生炉用炭(中塊)ノ特ニ不足ナルノ現況ニ鑑ミ之ガ需要ヲ

極力雜炭ニ振替フルコト

(3) 特殊バンカー炭ハ塊粉率三〇%、發熱量五〇〇〇カロリー以

上ヲ適正炭トスルコト

(4) 發註軍需品ノ緩急順位ニ基キ一部中止又ハ繰越ヲ行フコト

(5) 鐵道用ハ重要物資ノ陸運轉移等輸送力増強ノ爲重點配炭シ旅

客列車ノ急遽整理ヲ斷行スルコト

(6) 各省官需中燧房用ハ特殊トシテ其ノ使用ヲ制限スル

極力制限

コト

(7) 一般民需ノ大口産業ニ付テハ生産能率、製品ノ良否、製品配給ノ難易等ヲ考慮シ配炭ヲ重點工場ニ集中スルト共ニ操業維持工場ト休止工場トヲ産業別、個別的ニ決定スルコト

(8) 小口産業ニ對スル規正甚シキ實情ニ鑑ミ之ガ配炭ノ適正ヲ期スルコト

(9) 煖厨房浴場用炭ハ原則トシテ之ヲ一定カロリー以下ノ石炭ニ限定スルト共ニ特定ノ地域内乃至特殊ノ場合ヲ除キ煖房用、使

在方...
用ヲ兼用スルコト

(10) 狀況ニ依リ不急手持石炭ノ回收轉用ヲ圖ルコト

(11) 生産及輸送關係

(1) 地方別、炭田別ニ徹底的重點生産ヲ圖ルコト

(イ) 常盤、山口及筑豊ノ三炭田ヲ最重要炭田トシテ生産ニ全力ヲ傾注スルコト

(ロ) 西九州及北九州炭田(筑豊炭田ヲ除ク)ノ増産ハ右ニ準ズルコト

(1) 北海道炭田ハ出炭制限ノ方針ヲ採リ原料炭、發生炉用炭、
産出炭礦ノ維持培養ニ努ムルコト

(2) 陸送ハ本州及九州三炭田ニツキ重點出炭ノ方針ナルニ即應シ
貨車送炭ニ全力ヲ傾注スルコト

(3) 海送ハ特ニ九州炭ノ機帆船輸送ニ付適時適處ノ配船ニ努ムル
コト

尙機帆船ノ統制運営方式ヲ速ニ強化確立スルコト

(4) 炭種銘柄ノ單純化ヲ更ニ強行シ輸送力ノ増強ニ資スルコト、

(5) 石炭ノ高度規正ノ下ニ於テ物的戰力ノ造出ヲ極力維持増強スル
タノ之ガ實施ニ關シ生産、輸送、配給、消費ノ全部面ニ亘リ重點
且ツ個別的ニ措置スルコト

昭和十七年度第四回半期石炭配當標

企 計 S 物 A O 八 六 號

一 遠 番 號

昭 和 十 八 年 一 月 二 日

企 業 院

目次

- 第一表 第四回半期汽船積石炭地境別配當實施標準
- 第二表 下半期内地石炭需給標準
- 第三表 第三回半期内地石炭地境別需給實績見込
- 第四表 第四回半期内地石炭地境別需給標準
- 第五表 第四回半期本州四國產業別石炭配當標準
- 第六表 第四回半期本州四國山口產業別石炭配當標準
- 第七表 第四回半期本州四國產業別追加配當標準
- 第八表 下半期北海道、九州地方石炭用途別配當標準

別配當實施標準

(單位 千噸)

臺灣			南 支				計			
二月	三月	計	一月	二月	三月	計	一月	二月	三月	計
							600	558	516	1,678
							75	60	45	180
							60	50	45	155
			10	10	10	30	35	30	30	95
							60	60	55	175
							(20)	(20)	(20)	(60)
							400	360	320	1,080
		2					20	20	20	60
							(20)	(20)	(20)	(60)
		2	10	10	10	30	1,250	1,138	1,030	5,418

鮮向 (每月約 20 朝鮮鐵道用) 八滿洲僱籍船

差引供給	輸出		輸入			移入			生産	
	南支	南洋	朝鮮	佛印	北支	滿洲	樺太	臺灣		
八四六一			三七		二四三				八二五五	北海道
一六七二六			汽七三機一五〇		七七九	一五〇		一〇	一五九七五	九州
七二一八				一一三	一六三七	二二〇		四七三	汽四七九機七一	本州四國
三三三〇五			二六〇	一三五	二六五九	三七〇		四八三	五七五	計

第二表

下半年期内地石炭需給標準

(單位 千噸)

第一表

第四四半期汽船積石炭地域

揚地	内地				朝鮮			
	一月	二月	三月	計	一月	二月	三月	計
海道炭	600	558	515	1,673				
州炭	70	55	40	165	5	5	5	15
鮮炭	60	50	45	155				
灣炭	25	20	20	65				
洲炭	60	60	55	175				
北支炭	400	360	320	1,080	(20)	(20)	(20)	(60)
印炭(○船)	18	20	20	58				2
計	1,238	1,123	1,015	3,371	(20)	(20)	(20)	(60)

備考

*印括弧内、数字即北支大同炭ノ朝又ハ適切ナル其ノ他措置ヲ考慮ス

差引配炭見込	下期末貯炭	上期末貯炭	差引供給力	内地移動	
				出	入
四五二六	一七二六	一八一六	四四二六	汽 三八九九 機 一三六	汽 三六二(島内月五〇) 機 四九〇〇
一〇三六八	一〇三九	一〇三九	一〇三六八	鐵道 一三〇〇 六四六一	機 三
一七六一一	三五三	三五三	一七六一一	機	一〇四九六
三二四〇五	三一〇八	三二〇八	三二四〇五	一〇四九九	一〇四九九

備考(一) 機帆船其ノ他ハ實績見込ヲ計上セリ
 (二) 期末貯炭ハ坑所、港頭、市場(北海道ハ沿線貯炭ヲ含ム)
 貯炭トス

第三表 第三、四半期内地石灰地域別需給実績(見込)
 (單位 千地)

差引配炭見込	貯炭補填	差引供給力	内地移動		輸移入	輸移出	生産	北海道	九州	本州四國	計
			出	入							
① 一〇〇	一〇〇	一〇〇	汽 二二六 機 九一	汽 二二六 機 九一	北支 一四三 神印	南支 三三 南洋	四二二	七二五	一八六八	一五七五	
① 一〇〇	一〇〇	一〇〇	汽 二二六 機 九一	汽 二二六 機 九一	北支 一四三 神印	南支 三三 南洋	四二二	七二五	一八六八	一五七五	
① 一〇〇	一〇〇	一〇〇	汽 二二六 機 九一	汽 二二六 機 九一	北支 一四三 神印	南支 三三 南洋	四二二	七二五	一八六八	一五七五	

第四表

第四四半期内地石炭地域別需給標準

(單位 千噸)

差引供給力	内地移動		差引供給	輸		移	生	北	海	道	九	州	本	四	國	計	
	出	入		出	入												
汽機 17673 汽機 17118 鐵道 4540	汽機 10546 汽機 10546 鐵道 4540	汽機 17673 汽機 17118 鐵道 4540	南支 4233 南洋 4233	佛印 100 北支 100	高 20 臺 20	朝 10 朝 10	4133	8130	1111	14435	汽機 155 汽機 155	汽機 155 汽機 155	汽機 155 汽機 155	汽機 155 汽機 155	汽機 155 汽機 155	汽機 155 汽機 155	汽機 155 汽機 155
3505	3505	3505	4233	100	20	10	4133	8130	1111	14435	300	300	300	300	300	300	300
3505	3505	3505	4233	100	20	10	4133	8130	1111	14435	300	300	300	300	300	300	300

備考

機帆船其他ハ貫續見込ヲ計上セリ

第五表

第四・四半期本州西國産業別石炭配當標準

(單位 千噸)

産業別	産業	大分	産業	配當量		改訂	規正率對	規正率對	規正率對
				現行配當下期%	改訂配當下期%				
製鐵	製鐵	製鐵	製鐵	946	1233	1577	19	19	19
造船、造船機	造船機	造船機	造船機	90	60	37	24	24	24
金屬工業	金屬工業	金屬工業	金屬工業	280	280	209	25	25	25
鑛山	鑛山	鑛山	鑛山	178	178	132	26	26	26
其他	其他	其他	其他	116	116	81	70	70	70
計	計	計	計	1533	1533	1144	75	75	75

纖維工業					化學工業								窯業							金屬工業			造船、造機									
製色整理加工 製色整理加工 製色整理加工 製色整理加工 製色整理加工					其火皮ゴ 油脂及加工 過燐石灰及化成肥料 硫酸、硝酸、メタノール 有機成カーバイド石灰、炭素 曹達工業 電金 輕金 計								製煉硝研耐石七 陶瓦土管其ノ他 煉瓦土管其ノ他 硝瓦土管其ノ他 研瓦土管其ノ他 耐瓦土管其ノ他 石瓦土管其ノ他 七瓦土管其ノ他 計							金一輸航 屬般送 工機機 業械械 計			造船、造機									
七四九	一四三	一三九	一六一	二六一	一四七	六〇	六九	二二	五九	九〇	四〇	一〇	二八	三七	四八	一四	四九	八一	二五八	二二	一三	六五	一一	一六	一	二	三	五〇	三	二	九〇	九
三八九	二一	六六	一三〇	二七	二七	三三	三三	八一	四九	三一	五〇	二九	二八	三七	三〇	五	三一	五一	一八一	一六	九	四	四	一	一	一	三	三	二	六〇	七	
五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	四〇	四〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	
二一六	一〇九	三八	八六	一五	一四	一四	七四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	
七七	七七	六八	六八	六八	六八	六八	七二	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	
五三	五三	四三	二九	四九	三二	三二	五二	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	

其 私 ノ 設 他 (含 公 荷)	液 體 燃 料		電 力		煉 炭		瓦 斯 コ ー ク ス		製 鹽		食 料 品 工 業	
	ア ル コ ー ル	人 造 石 油	石 造 油	其 計	日 本 送 他	孔 明 煉 炭	豆 子 煉 炭	ピ ツ 子 煉 炭	瓦 ス	製 業	製 糖 製 粉	醸 造 飲 料 品
二二	一七四	一〇三	一三四	一六四	六六五	四二六	一七五	八八七	八二五	五八	七三	五〇
一四	一三六	八〇	一〇〇	九二五	三九	二四五	一〇〇	七〇	六六六	四一	四二	三〇
三五	二七	三五	二〇〇	二〇〇	四二	四三	一五	三〇	三〇	三〇	三	四〇
八	七八	八八	八二〇	七六二	二六九	一六三	四〇	七三一	六八四	二九	一九	一〇
六四	四三	五五	三二	三三	六二	六二	三八	二五	一八	五〇	五八	六三
四三	三九	四〇	二三八	三三	三三	三三	三六	⊕	⊕	二九	二五	二五

産業別	奉定量 (下期計畫上)		現行配當 (下期上)		改訂配當案	
	(A)	(B)	A%	率對	A%	率對
製鐵鋼	九七	八三	一五	七二	一	一九
鑛山採鑛	二一	一五	三〇	一一		四四
造船機械金屬工業	三一三	二一三	三二	一九一		四〇
窒素工業	一七五	七八	五五	三五		七八
化學工業	四二七	二二〇	四八	一三七		六五
織絲工業	五三八	二二三	五九	九三		八三
食品工業	二九〇	一一一	四二	三九		八六
製鹽業	三五	二六	二七	一四		五八
瓦斯コークス	二	一	三〇	一		三〇
炭	一	一	一	一		一

第六表 第四四半期本州四國小口産業別石炭配當標準 (單位 千噸)

總計	船舶燃料		山元消費	特殊用	官需	小口消費		大	緩廚房浴場
	外計	内計				口	口		
一三六九〇	五六	五六	七八	八七六	一三五〇	一〇七二	八三五八	二	
九四五八	五六	五六	七八	七四三	一〇四五	一〇〇〇	五九六一	一	
八〇三〇	五三	五三	七三	六五一	一一九一	一一三三	五二九二	一	
	六	六	六	二六	一三	七五	五〇	五〇	
	六	六	六	一三	九	五	五	五	

總計	煉房浴場	其他		私設鐵道	液体燃料	電力
		原料發生指定口及貯蔵	(其、他(含公衛))			
三〇七二	七六四	一九六	一六一	一	二四	一
一五四三	三三五	一〇五	九六		一八	
五〇	五五	五〇	四〇	一	二五	一
七七〇	七六	二〇	五九	一	一〇	一
七五	九〇	八〇	六〇	一	五七	一

第七表 産業別追加配當標準

一、大口産業	(單位 千瓩)
製鐵製鋸	一〇〇 北支炭、北海道輪西向一〇〇ヲ本州四國ノ製鐵製鋸ニ振替ヘ配當
耐火煉瓦	二〇 追加
輕金屬	六
有機合成、カーバイド、石灰窒素	六
硫酸、硝酸、メタノール	一八
油脂及加工業	五
電力	一三七
官需鐵道用	一五七
合計	四四九
追加分	一九二

營業用炭ノ輸送ニ支障ヲ及ボサザル様自家増送ニ依ルモノナルヲ以テ供給力ヨリノ考慮外トス

業別	産別		業別		産別	
	北海道	九州	北海道	九州	北海道	九州
製鐵	731	1628	332	1960	2	2
製鋼	234	789	21	810	3	3
特製鋼	965	1452	361	2813	3	3
計	50	70	10	80	10	10
鑛山	8	17	5	22	1	1
造船	3	33	1	40	10	10
航空	3	33	1	40	10	10
輸送	3	33	1	40	10	10
一般機械	3	33	1	40	10	10
計	11	118	13	150	6	6
石炭	65	198	32	250	4	4
耐火煉瓦	13	100	2	100	1	1
研削砥石	3	33	1	40	1	1
煉瓦	3	33	1	40	1	1
製陶、玻璃、其他	81	269	58	327	5	5
計	111	333	101	377	25	25

第九表

下半年期北海道、九州地方石炭用途別配當標準

(單位 千噸)

備考

北海道製鐵用北支炭一〇〇千噸減ニ對シテハ大夕張炭以外、粘結炭ヲ以テ補填ス
官需鐵道用炭中關釜連絡船焚炭三四千噸ハ九州地域ニテ充當スルモノトス

二 小口産業

食料品工業 四三 追加(精麥、煉粉乳、味噌、醬油等)
ガスコークス 四六
私設鐵道 二六
發生炉指定口 三三
合計 一四八

三 右大口及小口産業追加合計三四〇千噸ハ一總本州四國ニ於ケル玆所港頭貯炭三五〇千噸ヲ以テ充當スルモノトシ尙海上輸送運航能率増加等ニ依リ極力本州四國地方石炭、供給力増加ニ努力スルモノトス

織維工業		化學工業										窯業						造船、航空機													
八種染料、整理加工		麻毛織物		綿毛織物		絹織物		皮革		火藥		其他		石油		硫酸、硝酸、過燐酸、石灰及化成肥料		石炭、焦炭、合成、カーバイド		電氣		輕工業		耐火煉瓦、耐火煉瓦、耐火煉瓦、耐火煉瓦		石炭煉瓦、耐火煉瓦、耐火煉瓦、耐火煉瓦		航空機		造船機	
計	ル	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		
197	58	4	34	34	3	6	25	3	6	25	81	1	3	1	6	1	3	8	1	3	1	6	1	3	8	1	3	1	6		
87	113	4	71	34	20	37	23	15	10	7	26	9	3	100	19	56	3	17	1	3	1	6	1	3	8	1	3	1	6		
14	12	6	170	36	10	12	87	10	30	13	58	1	3	21	52	17	1	5	1	3	1	6	1	3	8	1	3	1	6		
101	115	50	211	380	30	49	310	25	130	82	37	9	36	100	50	69	40	2	1	3	1	6	1	3	8	1	3	1	6		
45	45	35	30	10	10	10	11	30	30	30	45	45	45	100	100	100	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

内 船 材 料	山 元 消 費	特 殊 用	官 需	小 口 消 費	大 口 計	後 厨 房 浴 場 其 他 私 設 鐵 道 其 他 (含 公 衛)	液 體 燃 料	電 力	煉 炭	瓦 斯 コ ー ク ス	製 鹽	食 料 品 工 業	大 分 類		
													配 管 額	現 行 額	
計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭	計 入 炭
八二一	七二〇	一〇一	二二四	七六六	一七六六	七	一一四	一一八	二〇	七六	一〇	八二	三二	一六六	一六六
七九四	七六〇	三三	五二〇	四一三	五〇九	七	二四	七六〇	六二	三〇〇	二五〇	一六六	一六六	一六六	一六六
六	六	一	一	三一	八二〇	一	一六	一	一	六	六	一	一	一	一
八〇〇	七六〇	四〇	五二〇	四四三	五九一	八	二六	八七〇	六二	三六五	三一〇	一六六	一六六	一六六	一六六
一	一	三	一一	三	一八	三	二	一	一	一	一	三〇	三〇	三〇	三〇

備考	總計	船舶燃料		山元消費		特殊用	官需		小口消費	大口消費	厨房浴場 小口消費	其 私設 鐵道 其他 (含公衛)	液體燃料			電力		煉炭			
		外船	内船	自買	計入		計A	其 鐵道					其他省	ア ル 計	人 造 石 油	石 油	其 計	日 本 發 送 他 電	孔 明 炭	豆 子 煉 炭	ビ ツ 子 煉 炭
	四五二六	三六一	一七二七	八二一	七三〇	一〇一	三二四	三八八	七六六	一七六六	七	二	一一四	一一三	一一八	一一〇	二〇〇	二〇			
	九三〇一	一七二七	一七二七	七九四	七六〇	三三四	一三三四	五二〇	四一三	五〇九四	七	二	二四五	二二七	二七一	七六〇	六二〇	六〇二			
	九六七	一	一	六	一	六	一一〇	一	三一	八二〇	一	二	一六三	一三	一一〇	一					
	一〇二六八	一七二七	一七二七	八〇〇	七六〇	四〇〇	一四三四	五二〇	四四三	五九一四	八	一四	二六一	三三〇	三三〇	八七〇	二七〇〇	六〇〇	六二	六〇	二
	九	一	一	一	一	一	三	二	三	一八	四八	三五	一	二五	一五	一					

備考 九州地區ニ於テハ現行規正ニ對シ其ノ後供給力増加（九六七
千魁増）ノ見込ニテ追加セリ
北海道地區ハ無規正ナリ

閣下第四五號
起 昭和十八年三月八日 閣議 昭和十八年三月十日 施行 昭和一 年 月 日
案 閣下 年 月 日 行 昭和一 年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣

由

海軍大臣

商工大臣

五

大東亞大臣

五

内務大臣

春

司法大臣

五

遞信大臣

五

陸軍大臣

五

大藏大臣

興

文部大臣

鐵道大臣

五

陸軍大臣

五

陸軍大臣

農林大臣

五

厚生大臣

五

別紙

緊急物價對策要綱